

建築主：石巻赤十字病院 金田 巖
 設計者：株式会社日建設計 木原碩美、梁谷朝幸
 施工者：鹿島建設株式会社 室井 博、鈴木祐二



建物全景（撮影：小野俊次）

建築概要

建設地：宮城県石巻市蛇田
 建築主：日本赤十字社
 設計：株式会社日建設計
 施工：鹿島建設株式会社
 建築面積：10,173m² 延床面積：32,486m²
 階数：地下1階地上7階塔屋1階 最高高さ：26.2m
 構造種別：上部鉄骨造、下部基礎鉄筋コンクリート構造、基礎免震構造

選評

滑動落下し散乱した書類やパソコン、被災者であふれるエントランスホールや外来待合、屋外に設営されたテント群…。応募資料からは被災時の緊迫した空気が伝わってくる。

多くの建物が壊滅し、津波が目前まで迫るなかで本建物は地域災害拠点病院としての機能を維持し多くの人命を救う役割を全うした。

それを可能にしたのはまずは施設のインフラ面での備えが万全だったことによる。免震構造、電源、水、液状化対策など予め周到に対応されていたものが全て有効に働いている。更に運用面でも病院の管理者やスタッフが日常から災害に対するシミュレーションを重ねて有事に備えていたことも円滑な救命活動が行われた大きな要因である。

本件は普及賞への応募であったが審査の過程で必ずしもその枠に納まらない貢献度があるとの評価が高まっていった。奇しくも1000年に一度とも言われる世界最大級の地震に耐えた初めての免震建築となったこの建物がこれまでわが国に建てられた2600棟の免震建築の有効性をはっきりと実証することになった意味は大きい。その被災の記録や種々なデータが広く世界に発信されることが期待される。今回異例ではあるが特別賞を設け建設関係者はもちろん、この病院にかかわりのあった全ての方々を対象に贈ることとなった。

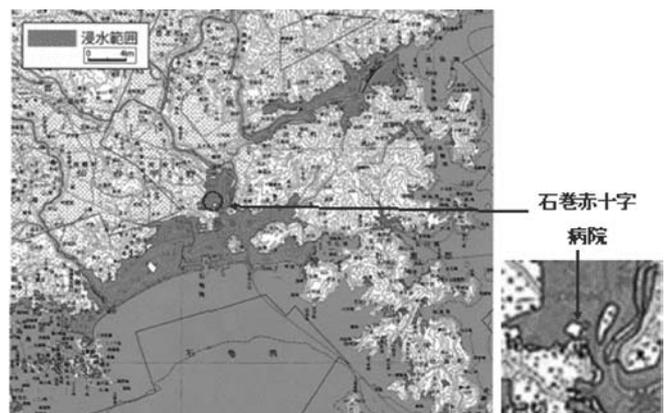
（江本正和）

震災で希望の光となった「免震病院」

東日本大震災での石巻市の被害は、死者3280名、行方不明者539名（平成24年3月11日現在）と被災県市町村の中で最も多く、甚大なものでした。亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

地域災害拠点病院を目指し免震構造を採用した石巻赤十字病院は、免震構造の性能を十分に発揮し、地震直後も石巻地区で病院機能を維持した唯一の施設として多くの人命を救うことができました。設計に盛込んだ以下が特に震災時に功を奏しました。

- ① 免震構造により床応答加速度が低減して重要医療機器の転倒破損がなく、機能維持に大きく貢献。
- ② 敷地近傍旧北上川の洪水対策として盛土を行い、結果的に津波浸水を免れることができた。また液状化対策として砂杭による地盤改良を行い、特にヘリポートは多くの人命救助移送に役立った。
- ③ 暴風雪対応用に玄関前に大庇を設置。これが被災者や医療機器等の一時雨よけとして対応できた。また1階外来待合などに医療ガス予備アウトレットを設置し、医療行為が可能であった。
- ④ 電気引込み2系統化、最上階に自家発電機設置など、インフラ寸断時にも電源供給が可能であった。また雑水用受水槽は備蓄量を多くするなど、地震時の機能確保に配慮した設備計画が功を奏した。これら設備機器も建屋の免震構造化により、機器転倒による機能不全に至らなかったものである。



石巻地方の浸水区域



1階外来待合の通常時（左）と地震後（右）の様子